

② 建築計画Ⅰ					
担当教員	本戸 久美子		実務授業の有無		
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を習得させ、事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、寸法、用途にもとづく設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 課題—小テスト—解答—解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を得得する。また、履修士2級の筆記試験範囲にある科目のため、合格点に達する学習態度を目標とする。				
テキスト・教材、参考図書、その他資料	図説 やさしい建築計画（学芸出版社）				
NO.	授業項目、内容	学習方法、準備学習、備考			
1	建築計画の基本知識—1 ①単位と寸法 - 建築で使用される長さ及び面積の単位	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	建築計画の基本知識—2 ①入換寸法と動作寸法 - 人間工学に基づく入換寸法と動作寸法	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	建築計画の基本知識—3 ①建築計画の進め方 - 4Fモデルとモジュラーコーディネーション ②建築計画の進め方 - 機能計画（ゾーニング・ブルーピング） - 動線計画、経路計画 - 構造計画、設備計画、避難・防災計画	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	各部分および単位空間の計画—1 ①各部の計画：各部の種類・寸法計画について - 廊・窓・階段の種類、階段・スロープの寸法と勾配	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	各部分および単位空間の計画—2 ①単位空間の計画 - 廊下・使用・浴室、各室の寸法計画	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
7	小テスト①	項目1～4から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～4を教科書、プリントなどで復習			
8	高齢者・障害者に配慮した建築計画—1 ①ユニバーサルデザインの建築計画 - ノーマライゼーションの考え方とユニバーサルデザイン	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
9	高齢者・障害者に配慮した建築計画—2 ①バリアフリー計画の要点 - 車イス利用の通行空間・設備の必要寸法	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
10	地域環境に配慮した建築計画 ①持続可能性、環境に配慮した計画の概念	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
11	小テスト②	項目5～10から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目5～10を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・授業態度を総合的に評価します。 期末試験30%、小テスト20%、授業態度30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への発展を促す。また定期的に小テストを行い理解度の確認する。また、振り返りを行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。授業態度をよめるために、本講義の振り返りについては、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経験					

② 建築計画Ⅰ					
担当教員	本戸 久美子		実務授業の有無		
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を習得させ、事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、寸法、用途にもとづく設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 課題—小テスト—解答—解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を得得する。また、履修士2級の筆記試験範囲にある科目のため、合格点に達する学習態度を目標とする。				
テキスト・教材、参考図書、その他資料	①図説 やさしい建築計画（学芸出版社）				
NO.	授業項目、内容	学習方法、準備学習、備考			
1	基本電気の分類 ①柱間タイプの特徴	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	基本電気の配置 ①柱戸計画・共用部分	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	①柱間地計画と近隣環境関係	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	小テスト③	項目1～4から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～4を教科書、プリントなどで復習			
5	高齢者・障害者に配慮した建築計画—1 ①ノーマライゼーションの考え方 ②ユニバーサルデザインの考え方について	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	高齢者・障害者に配慮した建築計画—2 ①バリアフリー計画の要点 ②車イス利用の通行空間・設備の必要寸法	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
7	地域環境に配慮した建築計画 ①持続可能性、環境に配慮した計画の概念	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	小テスト④	項目5～7から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目5～7を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・授業態度を総合的に評価します。 期末試験30%、小テスト20%、授業態度30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への発展を促す。また定期的に小テストを行い理解度の確認する。また、振り返りを行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。授業態度をよめるために、本講義の振り返りについては、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経験					

② 建築計画Ⅱ					
担当教員	熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	- 非住宅建築物設計の建築計画、考え方、計画の進め方を習得させ、事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、用途にもとづく設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 課題—小テスト—解答—解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	- 非住宅建築物の、建築計画（機能計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・防災）を学び建築物の事例から建築設計に活かせる知識を得得する。また、履修士2級の筆記試験範囲にある科目のため、合格点に達する学習態度を目標とする。				
テキスト・教材、参考図書、その他資料	図説 やさしい建築計画（学芸出版社）				
NO.	授業項目、内容	学習方法、準備学習、備考			
1	建築計画各論 ①小中学校 ②学舎の構造方式と設備 ③配置・動線計画と必要設備	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	幼稚園・保育園 ①幼児乳児に配慮した建築計画と各部分計画	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	小テスト①	項目1～2から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～2を教科書、プリントなどで復習			
4	図書館 ①必要設備の配置計画と関係 ②建築形式と用語	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	博物館・美術館 ①構成と動線計画 ②建築形式と用語	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	小テスト②	項目1～3から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～3を教科書、プリントなどで復習			
7	劇場・映画館 ①座席と構成・動線計画 ②建築形式、配置・設備計画	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	事務所 ①高層ビルの基本計画 ②レイアウト計画、用語	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
9	小テスト③	項目1～5から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～5を教科書、プリントなどで復習			
10	期末試験	項目1～7から抜粋し理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～7を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
小テスト・期末試験・授業態度・準備学習を総合して評価します。 小テスト30%、授業態度30%、期末試験30%、準備学習10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への発展を促す。また定期的に小テストを行い理解度の確認する。また、振り返りを行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。授業態度をよめるために、本講義の振り返りについては、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経験 設計業務、インテリアコーディネーターとして3年業務に携わる					

② 建築計画Ⅱ					
担当教員	熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	- 非住宅建築物設計の建築計画、考え方、計画の進め方を習得させ、事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、用途にもとづく設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 課題—小テスト—解答—解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	- 非住宅建築物の、建築計画（機能計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・防災）を学び建築物の事例から建築設計に活かせる知識を得得する。また、履修士2級の筆記試験範囲にある科目のため、合格点に達する学習態度を目標とする。				
テキスト・教材、参考図書、その他資料	①図説 やさしい建築計画（学芸出版社） ・補充資料				
NO.	授業項目、内容	学習方法、準備学習、備考			
	建築計画各論				
1	小中学校の計画 ①学舎の構造の構成と動線 ②機能計画、配置計画、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	商業施設の計画 ①商品陳列場、一般設備の用途と機能 ②構成と動線、機能計画、配置計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	小テスト④	項目1～2から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～2を教科書、プリントなどで復習			
4	病院・診療所の計画 ①病棟の構成と動線 ②機能計画、配置計画、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	高齢者福祉施設 ①老人福祉施設の構成と動線 ②機能計画、配置計画、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	小テスト⑤	項目3～5から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目3～5を教科書、プリントなどで復習			
7	劇場・映画館 ①劇場・動線場の用途と機能 ②構成と動線、機能計画、配置、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	コミュニティ施設・公民舎 ①コミュニティ施設の構成と動線 ②機能計画、配置計画、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
9	スポーツ施設 ①スポーツ施設の構成と動線 ②機能計画、配置計画、平面計画、各室計画 ③設備計画、防災	方法：教科書、資料を使って説明、解説の習得 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
10	小テスト⑥	項目1～7から抜粋し小テストで理解度の確認、 解答—解説を行う。 準備学習：項目1～7を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
小テスト・期末試験・授業態度を総合して評価します。 小テスト30%～40%、授業態度30%、期末試験30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への発展を促す。また定期的に小テストを行い理解度の確認する。また、振り返りを行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。授業態度をよめるために、本講義の振り返りについては、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経験 設計業務、インテリアコーディネーターとして3年業務に携わる					